



みんなで創ろう
安心した街づくり

発行：内田小学校区小域福祉ネットワーク

『年寄』と高齢者

内田小学校区小域福祉ネットワーク 会長 小出 完爾

高齢者、特に後期の人には「年寄」という名称には馴染みがある。

江戸時代には長の役職名であり組の頭など要の地位を指し、明治から昭和にかけては、本当に馴染み深い敬称であった。

〔人生100年時代〕

人生100年時代と言われ、働き方改革の中で70歳を現役世代と位置付、その先の10年から20年間位を老人として本人も認識し、周りの人もそう思う期間でもある。

どうしてこれほどの長寿が実現出来たのか、医学的な視点は別として、明らかに判ることは文明の発展が大きく寄与していることに他ならないが、その中でも住宅が十分な安心とくつろぎを得られる場として、人々のものになったことが大きいと思う。

その昔、昭和30年代あたりは、40歳を超えると、周りの人から年を取って来たと受け取られる人も多くなり、還暦を過ぎたころは、十分老人であった。

〔昭和30年初頭〕

当時は土間付きの家屋も多く、少し入り込むと裏口に出てしまうということもあり、内田でも薪のかまども多く、生活の基は人力を持つて手に入れるというような暮らし方であった。

人々は骨身を惜しまず、稲作は更に大変で、また日銭を得ようとすれば、自分の能力を俄に仕事に活かせ、人との調整の中で働く。

この骨身を惜しまず知恵をしぼり、社会動向に沿いながら暮らすという生き方は、凡そ子どものころにあった。

昭和30年代、子ども達は日々生活

を支える役で、子どもなりに知恵を尽くし一人役を担った。

毎日の風呂吹き、その薪集め、そして親たちが忙しいときは炊事にも取り組むなど、十分大人を先取りしていた。

この暮らし方は、年を取る中で重みを増し、老人と言われる年齢に至る。そしてその勤勉さによって智慧は美り、周りの人々からは高齢者としての老人ではなく、「年寄」として敬意が払われた。

〔豊かさの訪れ〕

時代が進み日々の暮らしに豊かさが訪れ、子ども達も子どもらしさに戻り、大人達も穏やかさのある生活が確保され始めた。

『元気があれば何でもできる』ーやさしさ 夢 元気ー

内田小学校 校長 仁科 俊

平成から令和へと元号が変わった今年度は本当にいろいろなことがあった一年間でした。台風十五号の災害では一週間にも及ぶ休校、十月二十五日の大雨では内田川があふれ緊急下校、そして最後にコロナウイルスによる長期休校。何でこんなことばかりが起きるのかと悩んだこともありましたが、いつも私たち教職員を元気にしてくれたのが「子供たちの笑顔」であり、そしてわが内田地区の方々の「温かい声かけやご協力」でした。地域の力を本当に感じることで、まさに「災い転じて福となす」一年間だったと思います。本当にありがとうございます。

さて、本年度内田小学校は学校教育目標を「やさしさ・夢・元気」として教育活動に取り組んでまいりま

した。「子どもたちに笑顔」を合言葉に新しい取り組みをたくさん行いました。うまくいったことはかりではなくご迷惑も多々おかけしたことと思います。校長がお詫び申し上げますのでご容赦いただけるとありがたいです。笑。では、その一端をご紹介します。

〈やさしさ〉

清掃活動

児童数の減少により、学級による人数の格差が出てきてしまい、清掃のありかたを考えていかなければならない状況になってきておりました。そこで全校を四グループに分け、それぞれのグループに一年生から六年生が入るようにして縦割りグループ

一方、この豊かさは地域で暮らす上での要であった生きるための「工夫と興味」という智の部分の曖昧に薄め、75歳の後期高齢者の年齢から寿命に至る凡その20年間の中には、「年寄」と称されるような周りからの敬意は戻らなかった。

「年寄」という呼び名が聞かれなくなった理由にはこの他にもあると思うが、理由に係わらず高齢者の立場としては、年相応に信頼を得たい気持ちがある。

はたしてそのところに戻れる方法はあるか、無いことはない。

それは、今の100年寿命時代のその人達の95歳から遡っての10年間に、「年寄」として尊敬された時代の75歳からの10年間の生活観を、移入してみてはどうか、このことを実現できれば多分尊敬される「年寄」になると思うところです。

での清掃活動にしてみました。六年生にリーダーとしての自覚が芽生えるようになり、以前はふざけていて怒らていたような子どもたちも一生懸命に低学年の子に手本を見せるようになりました。高学年が低学年の子の面倒を見ていくというような「やさしさ」が生まれてきたように感じます。

〈夢〉

ジェフ千葉による学校訪問

台風十五号の被害を受けた学校に、プロサッカーチームのジェフ千葉の選手たちが来てくれるという話を聞き、これはいい機会だと思いつつそく申し込んでみました。午後からの訪問ということもあり全校での参加とはいきませんでした。子どもたちは四名の選手たちと一緒にサッカーを楽しみました。選手たちは、「夢を持つこと」の大事さやそれに向かつて努力することの大切さを体を通して教えてくれました。この様子は、千葉テレビのニュースだけでなく千葉日報にも取り上げられ、子どもたちでなく保護者も大いに喜んでいました。貴重な経験だったと思います。



ジェフのみなさん内田小へようこそ

諏訪の子相撲大会 無差別級開催

雨が心配されましたが、諏訪の子相撲大会を諏訪神社で行うことができました。今年は新しい取り組みとして、内田小のチャンピオンを決める無差別級を行いました。小雨が降り少々寒かったのですが、子どもたちの「元気」な応援や「力いっぱい」の相撲が行われチャンピオンが決まりました。チャンピオンはチャレン

《元気》

内田地区大運動会

本年度は地区ごとに色を決め、大人も子どもも地区対抗で一緒に戦う運動会としました。地区が一つになりさらには内田が一つとなるような「楽しく元気ある」運動会になりました。地域・保護者の皆様のご協力本当にありがとうございました。

うちだの 竹取物語への参加

これから行われるアート×ミックスのプログラムの一つとして、内田未来楽校で「うちだの竹取物語」の展示が行われます。そこに内田小全校児童が竹で作った絵馬に「自分の夢」を書き、飾ってもらうことになりました。日頃からつながりを持たせていただいている内田未来楽校の行事ということで喜んで参加させていただきました。子どもたち一人一人の思いがしっかりと込められている竹を使った絵馬、ぜひご覧になつていただけると嬉しいです。コロナウイルス関係で延期が決まってしまいましたが、ぜひ開催される時が来ることを祈っております。



運動会(組体操)

室内雪合戦

まれにみる暖冬の中、児童会主催で体育館で雪合戦を全校で行いました。体育館で行うので当然本当の雪を使つての雪合戦ではありません。雪に似たあたつても痛くない安全な雪つぶてを使つての雪合戦です。楽しかったようで、来年もやりたいという声がたくさん聞かれました。企画運営した児童会の子どもたちも『生き生きと活動』することができました。

一年間を通して、内田小学校区小域福祉ネットワークの皆様をはじめ、地域・家庭・関係機関の皆様には御支援・御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。「元気があれば何でもできる」と本当に感じることもできた一年間だったと思います。今後も、地域の未来である子どもたちの為に内田小学校へ御支援・御協力をいただけますようお願い申し上げます。

ジャーとして最後に内田小校長と土俵上で対決し見事倒すことができました。真のチャンピオンが誕生した時でした。笑。

内田のネットワーク現状と今後

内田小学校区小域福祉ネットワークは、平成21年に設立され、地域の環境美化として諏訪神社境内の草刈りを行い、現在は神社と各町会でこの草刈りは続けられています。

通学路付近の草刈りも行いましたが、今は行っておりません。

内田の伝承すべき文化として「内田はやし」の復活を進め、現在もお祭には良い音色を聞くことが出来ます。

巨大地震の発災時の避難と安否確認の仕組みとして取り組んでいる「向こう三軒両隣(近所)の仕組み」の推進。

高齢者の皆さんへの茶話会の実施などであります。

地域での見守りとして、学童の下校の見守りとして毎木曜日に、子ども達と一緒に歩いておりますが、最近では、安全への保護者の思いもあり、自家用車による下校が多くなっております。

下校時の見守り



毎週木曜日に行っている。ですが、多くの場合保護者の自家用車による迎えで、車の窓越しに手を振ると云うところが現実です。

これも、集団がつくれない結果なのかと思いますが、見守ってくれた人達は次の方々です。

【見守った方々】

関氏 彰様 小出裕美様
征矢千歳様 小出完爾様
石塚礼子様
更生保護女性会員の皆様

独居高齢者世帯の 見守りの実施



見守りを希望された世帯が少ないことから、活動の規模は大きくありませんが、取り組まれた人達は次のとおりです。

見守りを行ってくれた方

米山 弘様 小出 勝様
多賀 一郎様

「見守り」を希望される「ひとりぐらし高齢者」の方は、各地区町会長・民生委員等に申し出下さい。

小域福祉

ネットワークとは (活動内容など)

内田小学校区小域福祉ネットワークは、地域方々が安心して暮らし続けることができる街づくりをめざして地域の皆さんで話し合いを行い、決定した事業を実施しています。

構成員は各町会長・民生児童委員・更生保護女性会・子育て支援員・学校支援コーディネーター・小学校関係者等で構成されています。

会議は毎月一回行われています。部会は三部会(地域部会・子ども部会・高齢者部会)で構成されています。

会議はそれぞれの部会ごとテーマを設定し討議・検討・実施を行っています。

部会ごとに討議・検討・実施されてきた内容の一部をご紹介します。

地域部会では、巨大地震の発災時に隣近所が助け合い協力して、安否確認や一時避難をする一時(いつとき)避難場所の設置・連絡員の選任等を推進するために「向こう三軒両隣の仕組み」を検討・実施をしています。この仕組みの成否には、地域の皆さんの協力が必須です。各地区の町会長さんが事業の説明や関係書類作成の際は協力をお願いします。

子ども部会では、子どもの下校時の見守り・昔遊びの実施等を学校支援員ボランティアや地域の方々の協力を得て実施しています。

高齢部会では、茶話会の計画検討・実施(内田地区全体実施・地域で実施)また、「一人暮らし高齢者見守り」に関する新規調査の計画・実施を討議しました。なお、調査は各地区町会長の協力を得て行いました。いずれの部会の事業を計画・実施するためには地域の協力の必要となります。

今後ともよろしくお願いいたします。

(米山 弘)